

ぼくのふるさと八百名山

このところ、たて続けに八百名山を登っている。いやあ、面白い。名山と呼ぶ山を一山でも増やしたいと思って、当初は日本百名山と新日本百名山の48山を除くという選定基準を考えていたが、その県を代表するふるさとの名山は外せないな、と考え直した。沖縄県の於茂登岳、島根県の三瓶山、千葉県の烏場山など新日本百名山として選定済みの山であるが、ふるさと八百名山の一山にも選ぶこととした。

八百山登るのは大事業だが、継続は力なりと言う通り、ぼくの八百名山コレクションも少しずつ形になってきた。以下、経過報告させて頂く。

「ぼくのふるさと八百名山」、沖縄県から選ぶ17山はまだ確定していないが、石垣島の於茂登岳と野底岳は選定を決めている。

於茂登岳は、標高525.8m。ぼくの新日本百名山でもある。沖縄県の最高峰であり、沖縄の大本であるそうだ。山頂に石塊があり、そこに神が下るといふ。琉球竹の茂る神聖な頂きだ。

野底岳、標高282.4m。石垣島の観光パンフレットにこの山を見つけた時、「よっ、マッターホルン」と声掛けたくらいに、マッターホルンのそっくりさん。ぼくらには、うれしい山容だが、マーペーという女性の悲恋が語り継がれている山。山頂から眺める珊瑚礁の海が素晴らしい。今年も12月に計画している。

釈迦ヶ岳、標高830.6m。宮崎県から選ぶ17山の内の1山とした。昨年12月、「岩崎元郎の健康登山講座」を宮崎市内で開催した。その翌日、プロデュースしてくれた地元山岳会の代表、田部美詠子氏にご案内頂いた。気楽に楽しめるいい山だ。全国区の山になるには地味だが、宮崎県人にはもっと登って頂きたい山である。

双石山、標高509.3m。「ぼろいしやま」と読む。その名の通りぼろぼろの石の山である。個性あり、品格あり。霧島山と組み合わせれば、東京から出掛けて行っても元が取れると思う。

鹿嵐山、標高758.1m。「かならせやま」、分県登山ガイド『大分県の山』に紹介されている。分県登山ガイドの著者は、巻によって様々である。数人が分担執筆、山岳会、一人で執筆など。大分県は親しくお付き合い頂いている別府市在住の藤田晴一さんが執筆されている。ぼくは一昨年、藤田さんのご案内で、登ってきた。絶景の山であった。

涌蓋山、標高1499.5m。「わいたさん」、大分県から選ぶ八百名山だ。実にいい山、藤田さんは「吹き抜ける風が心地よい大展望の山」、と書かれている。久住山と組み合わせ、是非登って頂きたい山だ。

那岐山、標高1255m。すこぶる名山である。岡山県から選ぶ17山の内の1山。鳥取県との県境に位置しているので、どっちの県にいれるか迷うところだ。他の県でも同様だが、バランスを考えて決定することになっている。(続く)